

北般若だより

2012年(平成24年)10月1日
第187号
北般若自治振興会
北般若公民館

平成24年度北般若文化祭 ご案内

本年度の北般若文化祭は11月11日(日)に開催される。舞台発表、作品展示・企画展示、食改の健康レシピの説明と試食会、直販所の出店に、なの花の里の販売、婦人会のバザーにフリーマーケットも。県大会3位となった北般若消防分団の操方実演も計画している。

日時 11月11日(日) 10:00~15:30
オープニングセレモニー 11:30
舞台発表 12:30~15:30
作品展示 10:00~15:30

場所 北般若公民館 および 吉住集落センター
作品展示はまだ募集を延長しています(10月中旬まで)。奮って応募下さい。氏名・連絡先・作品名(絵画・書等)・題名・点数・大きさ(展示に必要です)を記入して北般若公民館又は地区公民館・自治会まで。

石代花壇が県で奨励賞

第39回富山県花のまちづくりコンクール((財)花と緑の銀行主催)で石代高砂会(代表:古沢正一)が一般花壇の部で「奨励賞」を受賞し、10月9日に開催される第40回花と緑の大会(富山県民会館)で表彰される。昭和61年「最優秀賞」、平成21年「優良賞」に続いて3度目の受賞となった。受賞が決まった古沢代表は「昨年は高温で失敗し、今年に賭けていただけに今回の受賞は本当に嬉しい」。更に「石代の伝統である完熟牛糞を施肥した土作りが認められた。」と率直に喜んでいました。

今年の花壇は7種1000本(苗)の一年草とダリアなど6種類の多年草で色鮮やかに立体的で季節感あふれる花壇として演出されていた。その花壇も10月末には一年草は取り除かれ、秋起こしをして来年の準備がされる。さて、常勝石代高砂会の来年の花壇はどんな演出で訪れる人たちに癒しと感動を与えてくれるのだろうか、今から楽しみである。



敬老の日を祝う集い 2題

戸出地区2ヶ所で敬老の日を祝う集いが開催された。《敬老の日を祝う集い》は、高岡市南部老人福祉センターにおいて、これまでも戸出地区の敬老会と重ならないよう祝日を外して行なわれていた。今年9月14日(金)に行なわれ、同施設で行われている教養教室の生徒や施設利用者、及び戸出や中田地区の老人クラブ会員ら110人が出席した。

演芸発表では、大正琴・おどり・ダンス・カラオケ・民謡の教養教室の生徒が日頃の練習成果を披露し、会場から喝さいを浴びていた。また、書道・手芸・華道の生徒作品約70点が展示されたほか、来賓に茶道のお点前が披露された。来賓挨拶のため初めて訪れた新納耕一戸出地区社会福祉協議会長は、懐かしい知人達の演芸や作品のレベルの高さに驚いたそうである。



《戸出地区敬老の日を祝う集い》は、フェーン現象で猛烈な暑さに見舞われた9月17日(月・祝)、70歳以上のお年寄り350人を迎えて戸出会館で開かれた。婦人会組織がなくなり、市の事業見直しで助成が減額されたことから、招待状・記念品の送り届け、会場への送迎を取り止めるなど、運営を見直して2年目。挨拶では、ハニー跡地に建設中のコミュニティ施設で来年再会できるよう元気でいて欲しいと話されていた。

第2部の余興は、市野瀬保育園児による踊りと鼓笛演奏で始まった。会場のみんなで、丸美赤十字奉仕団合唱隊と一緒に「高岡市老連のうた」を合唱したり、戸出地区ヘルスポランティア8名の指導でリラックス体操を行なった。最後に北般若の親父さんバンド「イ・レガミ」が登場。「戸出音頭」などの民謡、「南国土佐を後に



して」などの懐かしい歌謡曲の演奏に、会場のみんなが酔いしれ、アンコール曲演奏の後、万来の拍手でフィナーレとなった。

お化粧直し終わる「毘沙門堂」

西部金屋毘沙門杉記念堂(毘沙門堂)は、昭和55年7月に建立され30年以上を経過した。ここ数年は建物の老朽化が激しく



今回自治会要望事項として高岡市より支援を仰ぎ平成24年9月末改修工事が完了した。

毘沙門杉は、大正13年12月史跡名勝天然記念物として指定を受けた。当時樹齢は1,300年位といわれ、樹の高さは28.5m、幹の周囲は地上1.8mのところまで11m、地上2.3mで4幹に分かれていた。

毘沙門杉の名称は、むかしこの地は東保郷常福寺と称する七堂伽藍のそろうた真言宗の北陸有数の巨刹があつて、広大な寺域の四隅には四天王の持国天、增長天、広目天、多聞天(毘沙門天)を仏法守護の神として祀つてあつた。この毘沙門天を祀つた毘沙門堂の跡に巨杉は繁茂したので毘沙門杉と称したと言われる。

この巨杉も樹勢が衰え始め、昭和54年9月4日の台風12号により倒伏、同年9月天然記念物として国からの指定も解除されたので、巨木を偲び毘沙門杉の威容を後世に残すため同杉の根幹を防腐加工し、永久保存するため記念堂を建立した。

11月11日の北般若文化祭で企画展示として、紹介・説明される。 戸出西部金屋自治会長 山本睦男
新西部金屋自治会長 長田義隆

～暮らしに楽しいスタンプ手芸～

9月22日(土)北般若婦人会-教養講座「手芸教室」が開催された。30名の会員が参加。芸術の秋！にふさわしく、全員、様々に悪戦苦闘！特に、アロマ効果の檜の木の籤(ひご)使いには、皆、芸術家！楽しい、和気あいの一コマでした！ 北般若婦人会:原夏美

北般若公民館に血圧計を設置

設置は北般若地区のヘルスポランティアの尽力によるもの。ホールにありますので健康管理にご活用下さい。

<シリーズ:この人を訪ねて> ブラジルで日本語教師 常木智代さん

この6月、JICAの2年間に渡る日本語教師ボランティア派遣を終え、西部金屋の実家に戻られた常木智代さんにお話を伺った。



常木さんは横浜の大学を卒業されているが、そこでの環境・体験から海外での活動に興味を覚え、日本語教師を目指し、専門学校にも通い、2009年から約1年間ベトナムで民間の日本語学校教師に採用され働いた。さらにベトナムからJICAの日系社会青年ボランティアに応募、試験・面接を通り、2010年7月からこの6月までブラジル・ベレン市へ他の4名と共に派遣されている。海外へ出る事は全て事後報告でご両親を説得した模様。



ベレン市はアマゾン川の南河口にあり、赤道直下。人口は130万人、気温は25~35℃で高温多湿。派遣された日本語学校は日本人が経営している民間の学校。一つは小さく学生は10人で近くの講堂を利用し週1回、もう一つは40人の学生がおり5教室ある少し大きな学校。合わせて週4~6回の授業を持っていた。漫画の影響もあり、日系人の子弟と共にブラジル人の生徒が増えている。日本を離れて久しい年輩の教師の方々の少し古い日本語に対し、戸惑うこともあったが、変化する日本語や現在の日本を知ってもらえるよう心掛けた。また言葉は文化、折り紙や日本の歌なども授業に取り入れた。プライベートでは治安の問題もあり、特に夜は出歩けなかったが、夏・冬休みには旅行も。2年もブラジルで暮らして多くの人と関わって良かった。また、外国に住んで仕事をするということの大変さがよくわかり、日本に住む外国人の手伝いをしたいと思った。

今後の目標は、まずこの10月の資格試験に合格すること。その後は国内で日本語教師の経験を積み活動の幅を広げていきたいと目を輝かせた。

北般若地区等の動き

10/ 3	戸出地区要望書提出(市・県)	10/16	戸出防犯講習会	10/28	県知事選投票日
10/ 6~7	北般若地区秋祭り	10/18	なのはな元気体操		雪つり講習会
10/ 7	戸出中学校学校祭	10/21	東部小学習発表会	10/31	JA組合員と語る会